



再整備が行われている帯広市の旧国鉄広尾線幸福駅で26日、同駅のシンボルツリーとするカツラの木が植えられた。11月上旬の再整備も順次進められる。

ハート形の葉…カツラ植樹

カツラは、ハート形の葉をつけることから「恋人の聖地」である同駅の象徴とする方針。駅舎西側の「幸福ふれあい広場」に植えられ、植樹場所に隣接して屋外で結婚式が挙げられる「青空チャペル」も整備される。

この日は午後1時から、真鍋庭園緑化（帯広）が作業に当たり、ハート形の葉があるシンボルツリーのカツラを植える作業員

新・幸福駅にシンボルツリー

広）が作業に当たり、傾きを調整しながら幹周り50センチ、高さ7メートルのカツラを植えた。同社の鈴木隆統括部長（63）によると、秋には落ち葉からチヨコレートのような香りがするそう
で「成長すると直径20センチ、高さ30センチほどにもなり、300年近く育ち続けると思う。駅のシンボルになっていくのが楽しみ」と話していた。

また同日から、南側にあるディーゼルカーの整備も始まり、座席を撤去する作業が行われた。同駅で結婚式を挙げた人の名前を記した「メモリアルプレート」を展示する施設となる。（伊藤亮太）

